

とうにうん

NO.82号 2020年 8月 24日
JR東海労 東二運分会
責任者 齊藤厚志
編集 教宣部

第21回東京第二運輸所分会定期大会開催！

スローガン

年休裁判を通じ、
更なる職場の労働条件改善に
向けた闘いを創り出そう！

2020年8月22日、京橋区民館において第21回定期大会を開催し、昨年度の闘いの総括と向こう1年間の方針を決定しました。

今大会は、コロナ禍の中での大会でしたので、人数を制限しての開催となりました。来賓には本部本橋書記長、地本伊藤書記長からの挨拶と、5年ぶりに職場復帰したJR総連淵上法対・調査部長より感想と挨拶を貰いました。

斎藤分長からは、台風等での計画運休、コロナによるお盆輸送でのズサンな設定、726億円の赤字やリニア建設中止、年休裁判について、高齢者の交番を作るべきであるなど問題点を明らかにし、来年度の分会体制として、東一運分会との統一に向けての挨拶がありました。

組合員からは、コロナの影響で冬のボーナスが減額なる事を、若い人たちが不安に思っている。しかも、儲かっている時には多く出せば良いのに、組合が闘わなければ組合費を払うのが馬鹿らしいとの声がある。円卓の場で表彰式を行う事で一時的にも業務が止まってしまうので他の場所でやってほしい。点呼時に眼鏡の一時忘れや次勤務確認票の誤記をしたとしても、その場で相互に確認して出場時に間違いなく眼鏡を持たせ、次勤務確認票は訂正すれば良い事である。失念や誤記などをチェックして後で呼びつけ注意する事ではない。乗務点呼は相互に確認することであり、出場点呼時に必要な確認や退出点呼は次勤務確認票の誤記を訂正して送り出すことで良いのである。検温時、37.5C以上の場合コロナなのかもわからない状況で、会社都合で帰される場合は、賃金の問題や勤務認証を明らかにする事、自宅で待機させる時は有休の自宅勤務（自粛）とすべきであると発言がありました。佐藤書記長の総括答弁、斎藤分会長の団結頑張ろうで終了しました。

乗務点呼等は乗務員が業務に不安や支障が無いように送り出すことである！

役員体制

執行委員長	斎藤厚志	コロナ禍を口実に社員の雇用と賃金をはじめとする労働条件の切り下げの反対する闘いを作り出します。
副委員長	広瀬哲也 鎌田隆一	リニア建設、開業に向けた効率化・労働強化・賃金抑制を許さない闘いを展開します。
書記長	佐藤正美	

執行委員	石倭美一 内村俊幸 今城敬一	年休裁判勝利・一方的な休日出勤を許さない闘いを組合員一丸となって闘います。
特執	淵上利和	社員が常に感染の危険性の中勤務に従事しています。会社は、コロナ感染者に対する治療と賃金保証を全面的におこなうべきである。
会計監査	伊藤 均 西村隆行	